



四 気 折 々

川越町立川越中学校 令和6年度
学校だより第26号 10月7日
・「わかる」「できた」と思える
授業について。学び合う・教え
合う授業づくりを進めています

四気 = 川越中 校訓 「やる気 ほん気 こん気 げん気」の4つの気

令和6年度 「川越中学校教育ビジョン」

『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組みをすすめます。その一つ、川越中学校では「わかる・できたと思える授業」を大切にします。

- ① 学び合う・教え合う授業づくり ② 誰も一人にしない授業づくり
- を進めます！そして③教職員の日常的な授業改善と教職員研修会を進めます！

令和6年度川越中学校教育ビジョン

学校教育目標『豊かな心』を土台とした「確かに生きる」力の育成のもと

【目指す生徒像】・自分を大切にする・他者を大切にする・粘り強くやりきる

生徒

【目指す学校像】・人を大切にする・安全で安心できる・地域や保護者とともにある

学校づくりを目指します

『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組みをすすめ

わかる・できたと思える授業

生徒に寄り添う
生徒理解の充実

認め合う・支え合う
環境づくり

子どもたちが主体
となる自治活動

心とからだの健康

『わかる・できたと思える授業』づくり ……具現化した「わらい」

- ◆ 学び合う・教え合う授業づくり ◆ 誰も一人にしない授業づくり ◆ 日常的な授業改善
- ◆ 指導と評価の一体化 ◆ ICT機器の活用の日常化 ◆ 家庭学習の定着

1. 川越中授業で目指すもの: 学び合う・教え合う誰も一人にしない授業づくり

学校教育目標をどのように具現化していくのか（学校づくりビジョンの具現化に向けて）

◆『関わること』を通して、一人一人の人権が大切にされる「仲間づくり」を土台にして・・・授業づくりにおいては、①・③の一人一人の子どもを大切にしたい5つの取り組みをすすめます。

①「わかる・できた」と思える授業・・・

■仲間づくりを土台とした「学び合い・教え合う」誰も一人にしない授業づくり

学習班やペア学習の話し合う課題を明確にした積極的な活用

(話し合う必然性のある活用)。

■ICT機器の活用の日常化

・授業ではすべての教科すべての先生が活用。総合・道徳・学活においても活用を進める・生徒会活動、専門委員会等でも活用を進める。

③「認め合う・支え合う」環境づくり・・・

■日々の関わりを大切にしたいクラスづくり<生徒間交流ができる場の設定>

・一人一人が安心して自分の思いを伝えることができる居場所づくりと、生徒間交流ができる場の設定を大切にしています。



- 行事を通した仲間づくりの成果（修学旅行・自然教室・体育祭・文化祭等）
- いじめ・差別を許さない心の育成
- 自尊感情・自己肯定感の高揚 ■道徳教育とキャリア教育の推進



2 「教師力の向上」 日常的な授業改善を通して・・・

川越中学校では『教職員校内研修会』を大切にして取り組んでいます。

令和6年度 川越中学校教職員『校内研修テーマ』

『仲間づくりを土台とした授業づくり』～（協働的な学びを基に）質の高い「めあて」と「ふり返り」を通して～

【川越中学校教職員研修会とは・・・】川越中学校では、「自尊感情がやや低い傾向にある（自分にはよいところがある（川越中の学調質問紙結果82%。全国平均は83%））。ことから、自尊感情の育成に力を入れ、「関わること」を通して人権が大切にされる仲間づくりと居場所づくりを目指しています。

このような実態の中、研究主題を『仲間づくりを土台とした授業づくり』としています。また、これまでの研修で大事にしてきた『授業が終わった時、生徒ができるようになる姿を想定し、協働的な学びを基に、質の高い「めあて」と「ふり返り」を引き続き大切にして授業づくりを行っています。

「日々の授業を通して目指す子どもの姿」をイメージした取組みで大切にしたい姿は・・・

■ 「わかる」「できた」と思える授業をめざすこと です。

授業において「生徒につけさせたい力」を明確にし、生徒がその授業のねらいを達成できることを大切にしています。ねらいを達成するためには、授業をする教師だけの力や、生徒個人の力だけでは達成できないと考え、生徒たちの関わり合いを通して、『学び合う・教え合う授業づくりと雰囲気づくり』を大切に、一人でも多く「わかった」、「できた」と思える生徒の育成に取り組んでいます。



■ 仲間とともに学び合う・教え合う生徒の育成 です。

「どのように学ぶか」という学びの質を高めていきます。生徒自身が人生や社会のあり方と学びを結びつけて理解を深めることが重要です。生徒自らに課題意識を持たせるためには、教師側の意図的な働きかけも大切になってきます。学び合い・深め合う授業を展開しながら研究しています。

また川越中学校では、「楽しく学び、何か一つでも持ち帰れる研修会」をテーマに教職員校内研修に取り組んでいます。その1つが、サブタイトルにある質の高い「めあて」「ふりかえり」です。ひとひねり工夫された「めあて」の設定とふり返りフォームの活用です。その結果、教員の意見交流が活発化し、他教科への生かし方等、学んだ事を自分化するようになってきました。



【川越中学校教職員研修会では、このようなことを実践しています】

■教員一人一回の川越エキスパート【授業実践研究(授業提案)】

（教科内での指導案検討と校長と事前の指導案作成を基にした対話。北勢教育支援事務所指導主事、町教委指導主事による助言・指導）日々の授業を教職員で見合ったり、職員室内で教科や学年を越えた教職員間で振り返りができる関係。

■年間14回の校内研修会を通して、「授業づくり研修」・「仲間づくり研修」・「人権教育研修」・「人権学習の提案授業研修」・「不登校生徒への対応」・「特別支援教育」等の実施へ

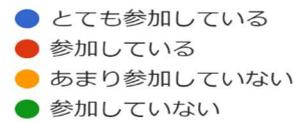
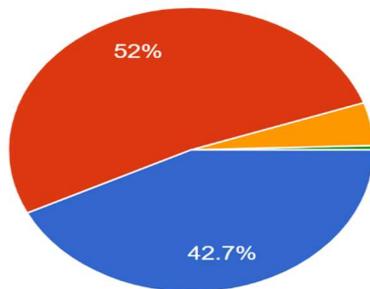


全員授業研修の川越エキスパート、スキルアップOJT、ICT機器の活用研等があります。また、毎週1回の研修委員会、教職員全体研修会に武庫川女子大学教授の森脇教授（6月27日（金）と10月10日（金）をアドバイザーとして招き、愛知教育大学准教授の黒川先生（11月28日（金）人権学習「部落問題学習から学ぶ人権」）、県教委人権教育課 齋藤指導主事を招聘し助言・指導を受けるなど、私たち教員の全体研修会を、年間14回と、『教師力の向上』に向けた研修体制を整えながら取り組んでいます。

R6 教職員研修委員会が実施した『1学期の授業に関わる生徒アンケート』

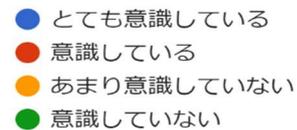
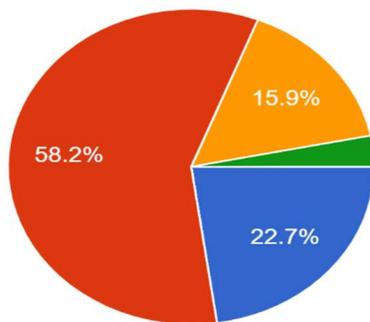
①授業中は進んで学習に参加している。

410 件の回答



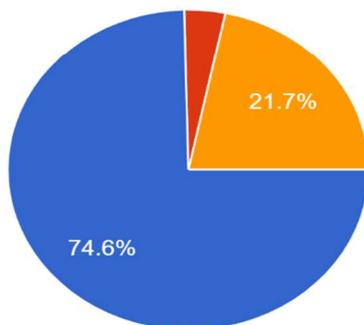
②授業中に「めあて」を意識して学習している。

409 件の回答



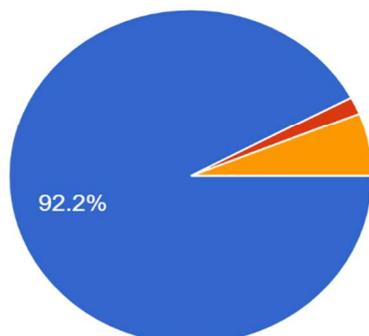
③授業中に、「めあて」を意識して学習することで、できたり、わかったりすることがある。

410 件の回答



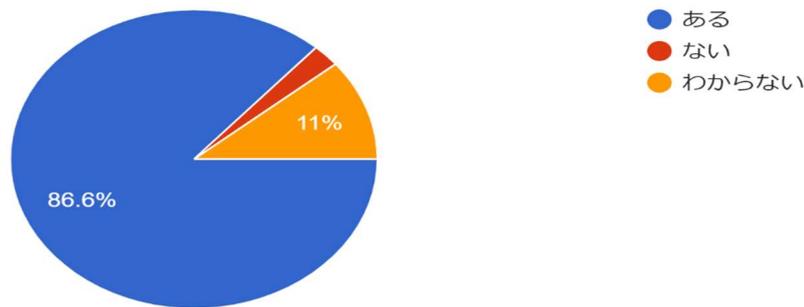
④授業中に、友達と助け合ったり、教え合った...ことで、できたり、わかったりすることがある。

410 件の回答



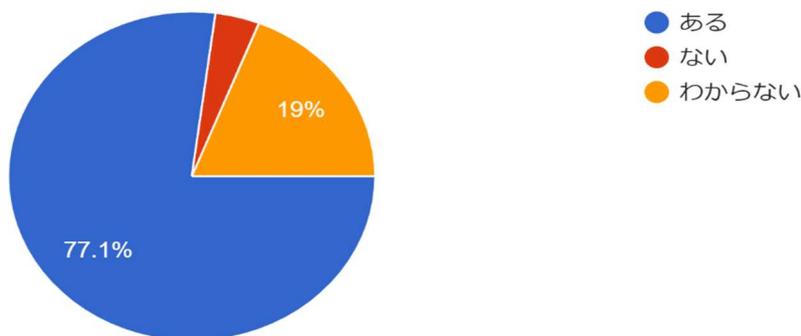
⑤授業中にタブレットを使って学習することで、できたり、わかったりすることがある。

410 件の回答



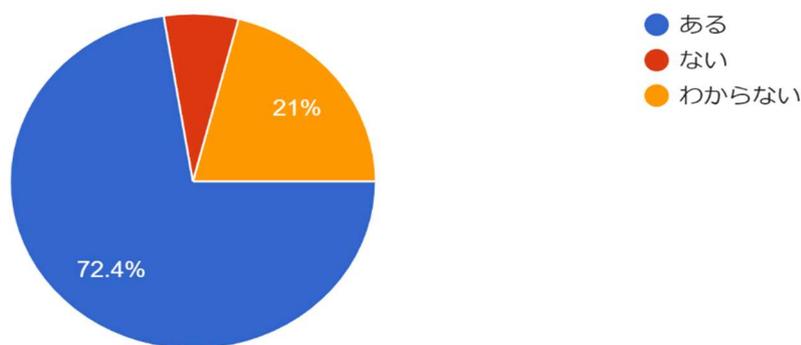
⑥授業の最後にふり返しをすることで、できたり、わかったりすることがある。

410 件の回答



⑦授業中に学習したことが、生活している中で、関係があると感じたことがある。

410 件の回答



【これからの教職員が大切にしている取り組み】

協働的な学びを基にした、『学び合う・教え合う』という班活動やペア学習は、日々の授業において毎時間必ず行われるわけではないが、授業の中で大切にしている活動。しかし、授業の中で、「班活動＝話し合う・発表する」ことも大切ですが、それだけで終わることのないように、対話を重ね、課題解決や問題解決ができるような、『明確な課題設定』を各教科で取り入れ、互いの考えや意見を聴き合える班活動のような学習環境を創ることができるように、教職員研修会や日々の授業改善を繰り返しながら、私たち教職員も日々の学びを大切にしていきます。このことが、子どもたちの「学びをあきらめない」さらには、子どもたちの「学力向上」につながるよう取り組んでいきます。